県営圃場整備事業（担い手育成型）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

富山県福岡町

蓑島地区に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告

HM－01遺跡・蓑島前川原遺跡・HM－04遺跡・蓑島遺跡

2002年3月
福岡町教育委員会

カラー図版１　調査対象地航空写真（2000年）

カラー図版２　調査対象地全域（西から）

カラー図版３　蓑島前川原遺跡周辺（南から）

序

福岡町蓑島地区で計画されている圃場整備事業は、県営圃場整備事業（担い手育成型）に伴うものです。福岡町教育委員会では、この事業の実施に先立ち分布調査・試掘調査を３年間にわたり実施してまいりました。

調査の結果、新たに中世後期15世紀を中心とする蓑島前川原遺跡が確認されました。確認された遺構には、井戸跡や柱根がありました。現在は水田となっておりますが、当時は屋敷地が存在していた景観が浮かび上がります。こうした成果は、蓑島集落の成立を考える上で貴重な歴史資料となるものです。

本書が、地域の歴史を理解する一助となり、埋蔵文化財保護意識の向上に資することになれば幸いです。最後に調査に御協力を頂きました地元の方々、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

福岡町教育委員会
教育長　石田　伸也

例　言

1　本書は、富山県西砺波郡福岡町蓑島地区における埋蔵文化財包蔵地の試掘調査報告書である。

2　調査は、県営圃場整備事業「担い手育成型」の実施に先立ち、富山県農地林務部高岡農地林務事務所の依頼を受けて、福岡町教育委員会が実施した。

3　調査の実施にあたって、富山県埋蔵文化財センターの協力と指導を得た。また、調査費用は、福岡町教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。

4　調査事務局は、福岡町教育委員会生涯学習課におき、文化財保護主事栗山雅夫が調査事務を担当し、平成12年度は教育次長川原清勝、平成13年度は教育次長佐伯邦夫が総括した。

5　分布調査・試掘調査の期間・面積・担当者については、第1表・第2表を参照されたい。

6　本書の編集と執筆は、福岡町教育委員会文化財保護主事 栗山雅夫が行なった。

7　発掘調査・整理作業・報告書作成にあたって、下記の補佐を受けた。

高田優子・増山真由美

8　出土遺物及び記録資料は、福岡町教育委員会が保管している。

9　調査の実施にあたり、以下の方々から御教示と御協力を頂いた。記して謝意を表します。

久々忠義・岡本淳一郎・境洋子・高梨清志

富山県高岡農地林務事務所・蓑島自治会・福岡町シルバー人材センター

10　その他

(1) トレンチ番号は～Tとした。

(2) 遺物番号は、写真図版と実測図をリンクさせている。

(3) 方位は真北、水平基準は海抜高である。

目　次

序文

例言

目次

第1章　遺跡の立地と歴史的環境…… 1

第１節　蓑島地区の位置と地形…… 1

第２節　歴史的環境と周辺の遺跡…… 2

第2章　調査に至る経緯…… 3

第3章　調査概要…… 4

第１節　分布調査 …… 4

第２節 試掘調査…… 5

1　試掘調査の経過…… 5

2　HM－01遺跡…… 5

3　蓑島前川原遺跡…… 7
(旧HM－02遺跡)

4　HM－04遺跡…… 8

5　蓑島遺跡 …… 8

第３節　まとめ…… 9

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第１図　地形と周辺の遺跡

第２図　分布調査対象地

第３図　分布調査結果と試掘調査対象地

第４図　試掘調査終了後の遺跡分布図

第５～１１図　試掘調査概要図

第12･13図　遺物実測図

表目次

第１表　分布調査内容一覧

第２表　試掘調査内容一覧

第３表　遺跡総括表

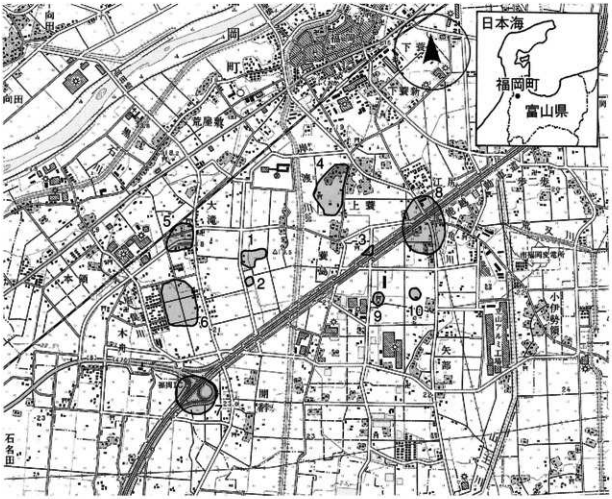
第１章　遺跡の立地と歴史的環境

第１節　蓑島地区の位置と地形

福岡町は、富山県西部「呉西」地区に位置する。町域は南東の平野部と北西の丘陵部に二分され、両地形を区切るような形で小矢部川が流れている。平野部は砺波平野の北西端にあり、小矢部川と庄川によって形成された複合扇状地の扇端部でもある。一方、丘陵部は町総面積の3/4あまりを占め、宝達山を主峰としながら能登半島の山々へと連なっている。

調査対象となった蓑島地区は平野部に位置し、標高は18ｍ～20ｍを測り南から北に向かって低くなり、さらに対象地の中央を流れる岸渡川に向かって傾斜する２重構造となっている。

遺跡の立地はこの地形の影響を大きく受けており、傾斜に沿って流れる河道や谷地形に挟まれた微高地上に存在する。当地区は昭和27～30年にかけて圃場整備がおこなわれており、一面平坦な景観を呈している。しかし、耕地整理以前は各地に湧水地や沼状地形が点在しており、基盤地形にある谷地形・旧河道がこうした「沼田」状地形形成要因として潜在していたといえる。こうした地形環境は、旧地籍図等に「深田」「川原島」といった小字が存在していることからも理解される。



第１図　地形と周辺の遺跡（1/25,000）1.蓑島前川原遺跡 2.HM－03遺跡 3.蓑島遺跡 4.上蓑中田遺跡 5.大滝遺跡 6.大滝芋田遺跡 7.開発大滝遺跡 8.江尻遺跡 9.矢部神宮寺跡 10.矢部北遺跡

第２節　歴史的環境と周辺の遺跡

１．歴史的環境

『福岡町史』によると糞島地区の地名起源について、２説が紹介されている。

①地区を南北に縦断する岸渡川の入り江北岸の地が「水の島」と呼ばれ、これが糞島となった。

②東南の地にあったとされる日尾山が地震により山くずれを起こし、さらに陥没し大沼が出現した。

この沼に菅が多く自生したので農閑期に菅蓑が作られていた。蓑を作っていた佐伯伯頼という人物は、三野島に移住し蓑作りを広めた。その結果、生産者が増加し村が形成されるほど人口が増え、糞島と呼ばれる集落が形成されるに至った。

その後、糞島は上蓑・下蓑と分村し、３カ村となった。

※「越中志徴」は、蓑島・上蓑・下蓑に共通する蓑について、「和名類聚抄」に記載されている砺波郡の「三野」であると記している。

上記にみられる伝承の中で注目されるのは、②の伝承にみられる地震である。当町の本格的な産生産は、江戸時代、加賀藩政下になってからであり、この地震は1586年の天正地震を想起させるものである。このことから、現在の蓑島集落に直結するムラの起源を中世末16世紀末～近世初頭に求められる可能性も指摘できる。

また、いずれの伝承も水を媒介とする地名伝承であり、当該地域が水の豊富な一帯であったことを物語っている。

２．周辺の遺跡

事業対象地内においてこれまで確認されていた遺跡は、蓑島遺跡だけであった。

蓑島遺跡は、能越自動車道の建設に伴う分布調査により、平成３年度に発見、平成４年度に試掘調査を実施し遺跡の存在が確認された。発掘調査は、富山県文化振興財団によって平成７年度に行われており、調査の結果、縄文晩期・弥生終末～古墳前期・近世以降の遺構・遺物が確認されている。

蓑島遺跡の200ｍ北東には、江尻遺跡がある。この遺跡も蓑島遺跡と同様に能越自動車道建設に伴う発掘調査により発見・確認・調査が実施されており、縄文晩期・弥生後期・古墳前期・中世～近世・近代の遺構・遺物が確認されている。

また、蓑島遺跡の1.3㎞南西には開辞大滝遺跡がある。この遺跡は16世紀後半の町屋遺跡群で、計画的な町並景観をもつ木舟城の城下町であることが発掘調査により明らかにされている。

以上の近隣発掘調査実施遺跡のほか、試掘調査もいくつかの遺跡で行われている。まず、矢部北遺跡では試掘調査により古墳時代前期の遺構・遺物が確認されている。大滝遺跡では、古墳・古代・中世・近世の遺物が見つかっている。

遺跡の分布状況を地図上にプロットすると、遺跡の立地は南北方向に連なるようにして存在し、遺跡出現時期が縄文晩期に結びつく傾向が認められる。

こうした傾向は庄川の度重なる氾濫と小矢部川に流入する小河川が、微高地を南北に砂洲状に形成させ、遺跡がこの上で営まれたことによるものと考えられる。

第２章　調査に至る経緯

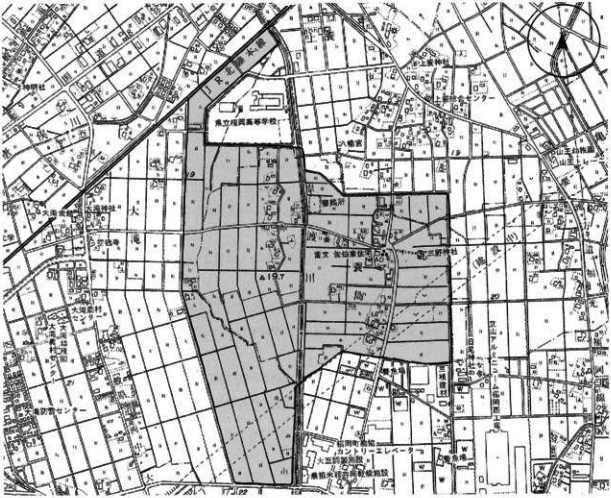
平成11年９月「県営圃場整備事業（担い手育成型、区画整理型）糞島地区」の事業採択に先立つ関係者の協議が行われた。出席者は、高岡農地林務事務所・町農林課・町教委・地元自治会長・推進委員長である。

打合せの席上、事業採択は平成13年度を予定していること。事業計画年は５ヵ年を見込んでおり平成18年度完工を目指すものであることが説明された。この時点において事業対象面積は最大で30haあまりであった。事業地内における周知の埋蔵文化財包蔵地は糞島遺跡のみであったが、詳細分布調査は行われておらず、周辺にも未確認の遺跡が存在する可能性があったため、まず、最大事業対象地30haを分布調査対象とすることとなった。

同年12月に分布調査を行い、糞島遺跡の範囲拡大と新たにHM－01～04遺跡の存在を確認した。

平成12年２月、高岡農地・県土改連合会・高岡農業改良普及センター・町農林課・地元推進委員会・隣接自治会長が集まり圃場整備事業全体の計画概要協議を行う場において、分布調査結果の報告を行った。

協議の結果、平成12・13年度の２ヵ年で試掘調査を行い遺跡の遺存状況を確認し、遺跡の保護措置を講じる調査方針が決定した。



第２図　分布調査対象地（1/12,000）

第3章　調査概要

第1節　分布調査

平成11年12月7・8・10・16日、町教委が調査主体となり富山県埋蔵文化財センターの協力を得て下記のとおり分布調査を実施した。

第1表　分布調査内容一覧

期日	調査担当	対象面積	遺跡推定地名称	遺跡推定地面積	採集遺物
1999年 12月 7・8・10・16 日	福岡町教育委員会 文化財保護主事　栗山雅夫 富山県埋蔵文化財センター 係　長久々　忠義 主　任 岡本淳一郎 文化財保護主事 境　洋子 〃　高梨　清志	30ha	ＨＭ－01	11,700㎡	須恵器 珠洲焼・青磁 越中瀬戸、肥前陶磁
			ＨＭ－02	18,300㎡	弥生土器 珠洲焼 肥前陶磁
			ＨＭ－03	2,500㎡	珠洲焼 越中瀬戸
			ＨＭ－04	5,500㎡	珠洲焼 越中瀬戸
			糞島遺跡	95,000㎡	弥生土器 瀬戸美濃・珠洲焼・ 中世土師器・青磁 肥前陶磁

事業対象地は過去に一度圃場整備が行われており、分布調査中も近世段階以降の遺物が散在する状況であった。中世段階の遺物としては、珠洲が採集される傾向が強いが、特に遺物集中地点は認められなかった。

なお、糞島遺跡内には国指定重要文化財である佐伯家住宅（18世紀後半）があり、該期に近世集落が広がっていたことは確実といえる。

また、HM－02遺跡は他遺跡に比べて珠洲焼が比較的まとまって採集されている。さらに、この遺跡と距離が近いHM－03・04では採集されない弥生土器が存在していることから、古い段階の遺構が存在する可能性が考えられた。

周辺の小字では、糞島遺跡内に「東島」「宮野後」、ＨＭ－02遺跡内に「西島」「前川原」、ＨＭ－03遺跡内に「深田」があり、島状に点在する微高地上に遺跡の存在が推測される。

第２節　試掘調査

１　試掘調査の経過

試掘調査は、分布調査によって推定された遺跡について、遺跡の詳細な範囲や遺構・遺物の遺存状況を確認するために実施した。

調査対象地は、分布調査による遺跡推定地からHM－03遺跡とHM－02遺跡の一部が事業から除外されることとなり、水田部分のみを集約すると、100,050㎡となった。

試掘調査内容は第２表のとおりである。

第２表　試掘調査内容一覧

	期　間（実　働）	調査担当者	遺跡名称	対象面積（水田部）	発掘面積	遺存面積	備　考
12年度	1999.10.19～12.20（6日）	福岡町教育委員会 文化財保護主事 柴山　雅夫	ＨＭ－01	11,267㎡	460㎡	0㎡	遺跡消失
	〃（8日）		ＨＭ－02	12,534㎡	627㎡	10,000㎡	蓑島前川原遺跡に名称変更
	〃（3日）		ＨＭ－04	5,831㎡	232㎡	0㎡	遺跡消失
	〃（24日）		蓑島遺跡	59,234㎡	1,930㎡	0㎡	遺跡範囲縮小
13年度	2001.11.26～12.01（6日）		蓑島遺跡	11,184㎡	236㎡	0㎡	

２　ＨＭ－01遺跡

（１）概況

調査対象地の中で最も北に位置し、標高18.0ｍ～18.5ｍで北に向かって傾斜している。分布調査では、須恵器・珠洲・青磁が採集されている。調査地の西端には古い区画の水路が流れている。

トレンチは12本設定した。基本層序は、①ａ層：暗褐色シルト（表土）、①ｂ層：暗灰黄色シルト、①ｃ層：明黄褐色砂、①ｄ層：にぶい黄褐色シルト、②ａ層：オリーブ褐色シルト、②ｂ層：灰色シルト、②ｃ層：灰オリーブ色砂質土、②ｄ層：灰オリーブ色砂質土（砂分多）、③ａ層：灰色砂、③ｂ層：灰オリーブ色砂礫となる。

（２）遺構

遺構は、溝・土坑・穴が確認されたが、いずれも掘り込みが浅く、遺構確認面も表土直下であるなど、遺存状態は悪い。穴から須恵器が出土しているが、まとまりを持つものではなかった。

（３）遺物（第12図－１）

遺物は、穴から出土した８～９世紀代の須恵器１点のみである。

第３図　分布調査結果と試掘調査対象地（1/6,000）

（4）小結

表土直下に地山である砂利層が現れる微高地部とその両脇に谷地形が広がるのがこの調査地の基本地形である。ただ、北側に設定した１～３Ｔは土層が比較的安定して堆積している。両者の相違は旧地形のレベル差にあるものと考えられ、対象地南半分は前回の圃場整備により削平を受けている。この結果、遺物包含層が遺存しておらず、検出した遺構も浅くまとまりを欠いている。

3　ＨＭ－02遺跡（調査後、蓑島前川原遺跡に名称変更）

（1）概況

ＨＭ－０１遺跡の200ｍ南に位置し、標高19.0ｍ～19.3ｍを測る。

トレンチは、17本設定した。基本層序は、①ａ層：黒褐色シルト（表土）、①ｂ層：オリーブ黒色シルト、②ａ層：灰オリーブ色シルト（中世遺物包含層）、②ｂ層：灰色シルト（遺構確認面）、②ｃ層：灰オリーブ色砂質シルト（湧水層）、②ｃ'層：褐灰色シルト（ピートに近い）、③ａ層：オリーブ黒色砂礫となる。

（2）遺構

遺構は、溝・土坑・柱穴・穴があり、質・量ともにまとまりをもつ。

４Ｔで水溜に刹り貫きの木を据えている石組井戸を検出した。この井戸の近くで柱穴を確認できたことから覆屋が存在していた可能性がある。

柱穴がまとまって確認されたのは、10Ｔ・12～15Ｔである。これらの柱穴には柱根が遺存しているものも多い。柱根の直径は10～20㎝を測るものが大半を占め、覆土の違いから時期差も考えられるが、遺構確認面が表土直下であるため一括して検出することとなった。

（3）遺物（第12・13図－２～９）

遺構が比較的まとまって検出できた割には、遺物の出土量は少ない。削平により表土直下で出土するものが多いが、中世後半15世紀～16世紀に収まる時期のものが主体となる。

2･3は、珠洲焼の擂鉢である。2は口縁形態が三角頭で、端部が肥厚し外傾するものである。3は口縁端部を細く引き出す長三角頭のものである。2のほうが若干古く15世紀前半、3は15世紀後半のものである。4は角礫凝灰岩、いわゆる桑山石製の粉挽き臼の上臼である。断面形態が台形、上下のくぼみは中央部分で深くなり15世紀前半頃のものと考えられる。5は中世土師器で口縁外面上部に一段ナデを施しており、15～16世紀前半頃のものである。6･7はピット内から出土した珠洲焼の甕胴部。8は木製刹貫の井戸水溜で樹種はマツである。9は口縁内面に櫛目波状文を施す珠洲焼擂鉢。体部が直線的に開き、口縁が肥厚した三角頭で14世紀末～15世紀前半頃のものである。口縁内面に櫛目波状文施す。また、図示していないが13Ｔで木製の柱の基礎部、14Ｔで折敷底板が出土している。

（4）小結

分布調査の際、本遺跡はその他の遺跡と比べて珠洲焼が多く採集されており、試掘調査結果と矛盾しない。遺跡の時期は、中世後期15世紀代を主体とするものである。調査後、遺跡名称は「蓑島前川原遺跡」に変更している。遺跡面積は約18,000㎡の集落遺跡である。遺存状況は、圃場整備の削平により本来の掘り込み面を失なっており良好といえる状態ではないが、柱根が多く遺存しており、井戸も検出されていることから数棟の建物の存在を想定できる。

4　HM－04遺跡

（1）概況

ＨＭ－02遺跡の南東100ｍにあり、標高20ｍを測る。トレンチは6本設定した。

基本層序は、①ａ層：暗灰黄色シルト（表土）、①ｂ層：暗灰黄色シルト、②ａ層：灰オリーブ色シルト（小礫含む）、②ｂ層：灰色砂質シルト、②ｃ層：灰オリーブ色シルト、②ｄ層：灰色砂質土、②ｅ層：オリーブ黒色シルト（粘性強）、②ｆ層：灰色砂、③ａ層：灰オリーブ色砂礫となる。

（2）遺構

遺構は確認されなかった。

（3）遺物（第13図－10･11）

遺物は表土直下から18世紀代の近世磁器が出土した。10の紅皿や11のコンニャク印判（団鶴文）を施す碗がある。分布調査で珠洲焼が採集されたが、中世に遡るものは出土しなかった。

（4）小結

調査対象地は岸渡川に近接しており大正10年の旧地形図では、小流路が確認できる。調査の結果、遺跡東側で谷地形が確認されたほか、砂分を含む②ｄ層が全体に広がっており、旧流路の氾濫に伴うものであろう。このため、遺物が元位置のものであるとは考えられず、遺跡の広がりは認められない。

5　蓑島遺跡

（1）概況

岸渡川右岸に位置し、標高は19.0ｍ～20.0ｍを測る。トレンチは87本設定した。

基本層序は、①ａ層：灰黄褐色シルト、①ｂ層：灰黄色粘土、①ｃ層：黒褐色粘質シルト、①ｄ層：灰黄褐色シルト、②ａ層：黒色シルト（ピート）、②ｂ層：黄褐色粘質土②ｃ層：灰オリーブ色砂質土、③ａ層：灰オリーブ色砂、③ｂ層：灰色砂礫となる。

（2）遺構

遺構は、溝・土坑・穴が確認されたが①層中から掘り込まれるものばかりであった。遺構内に遺物は含まれず、まとまりをもつものではなかった。

（3）遺物（第13図－12～16）

遺物は、珠洲焼２点のほかは近世以降の陶磁器である。12～14は珠洲焼である。12は甕の頸部付近で、口縁部分内面に同心円の当て具痕を残し、口縁と頸部の境目には斜方向のキザミを周回させる。13は甕の底部に近い部位で平行タタキを外面に施す。14の外底面は糸切底となる。15は肥前磁器で、18世紀頃の雪の輪文染付小皿である。ほかに18世紀中頃以降の蛇の目釉剥ぎを施す格子文染付小皿がある。16は越中瀬戸の鉢の底部である。

（4）小結

設定したトレンチは87本を数え、調査対象地も皿面積だけで約7万㎡あり、基本層序は統一的なものではない。大別すると、微高地上にのり砂礫層が隆起する１～11Ｔ・78～87Ｔと三野神社周辺の微高地部、能越道周辺の谷部に分かれる。以前の遺跡範囲は三野神社周辺であったが、調査により基本層序が削平を受けていることが判明した。能越道周辺の谷部では基本層序が安定堆積していたが、遺構・遺物は確認されなかった。能越道建設に伴う発掘調査では縄文晩期の遺物が確認されているが、今回の対象地では遺跡の広がりが認められず、遺跡範囲は縮小している。

第３表　試掘調査終了後の遺跡総括表（平成14年３月現在）

番号	遺跡名	時　代	遺跡の種別	面　積	備　考
1	蓑島前川原遺跡	弥生、中世（15世紀）、近世	集　落	18,000㎡	旧HM－02遺跡
2	蓑島遺跡	縄文（晩期）、弥生（後期）、古墳（前期）、中世～近世	集　落	3,500㎡	範囲変更

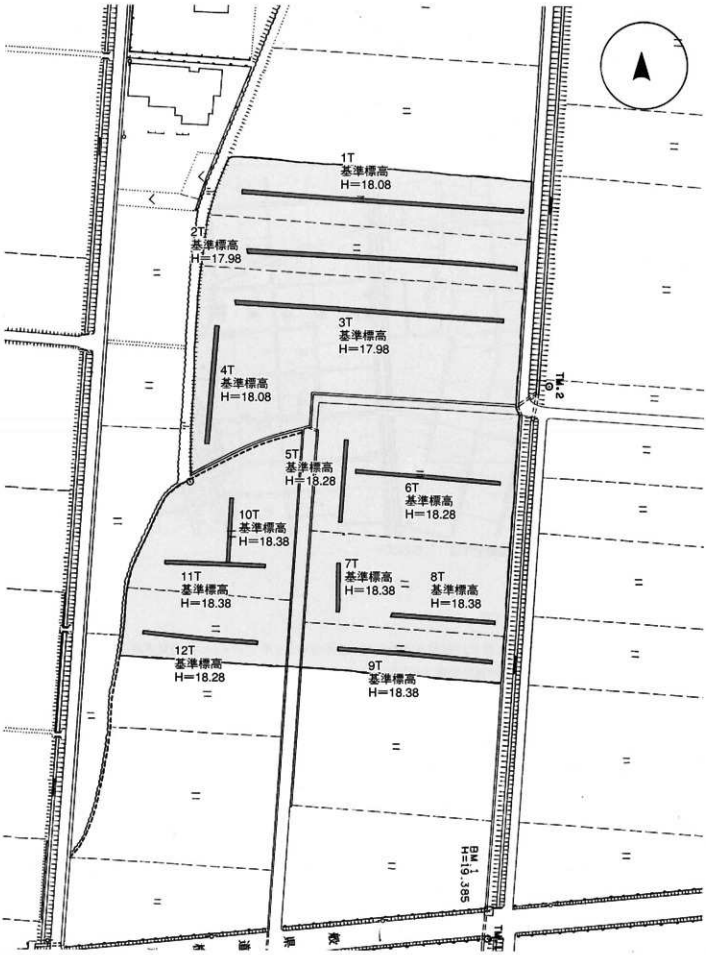
第４図　試掘調査終了後の遺跡分布図（1/5,000）

第３節　まとめ

蓑島集落の成立について

蓑島地区圃場整備事業に係る試掘調査は平成12・13年度の2ヵ年で完了し、新発見遺跡は蓑島前川原遺跡（15世紀主体）、既知の蓑島遺跡は範囲縮小している。ここでは、調査結果から推測される蓑島集落像についてまとめておきたい。

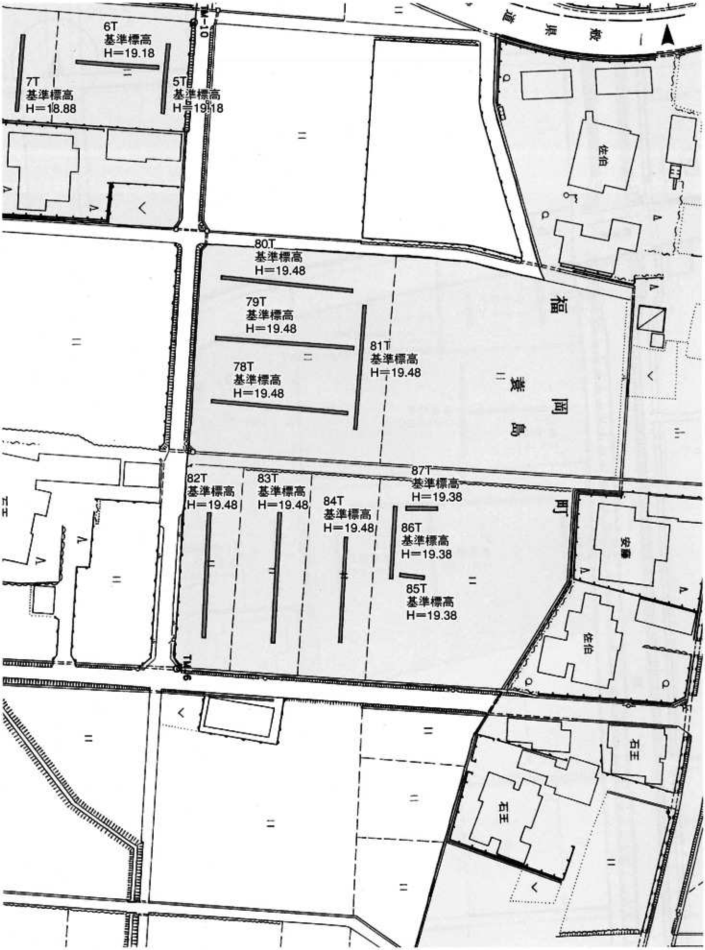
蓑島遺跡は、調査前まで村社三野神社を中心に存在すると想定されていたが、削平の影響が大きく遺構は確認出来なかった。しかし、神社の目の前には明和4年（1767）に工事着手する国指定文化財佐伯家住宅があり、18世紀代の集落の存在を示唆している。分布調査や試掘による出土遺物が18世紀代以降のものが多いこともそれを裏付けるものである。また、歴史的環境の頁で紹介したように蓑島集落の起源には菅蓑生産の関係が伝承されており、17世紀になって生産が本格化する。これらのことから、現状に近い蓑島集落の形成は近世以降であろう。金田章裕は、砺波平野の散村形態集落について、古代の孤立荘宅・小村的な村落景観がそのまま広く展開したものと指摘している（金田1993）が、近接する蓑島前川原遺跡は、小村的で存続期間も短い。氾濫原を避け微高地上に立地するこの遺跡は、河道変化等を期に移動したのか、近世段階の遺物はわずかである。蓑島集落の形成には、こうした周囲の小村が移動を伴いながら展開し、近世になり定着していった過程を読み取ることができる。



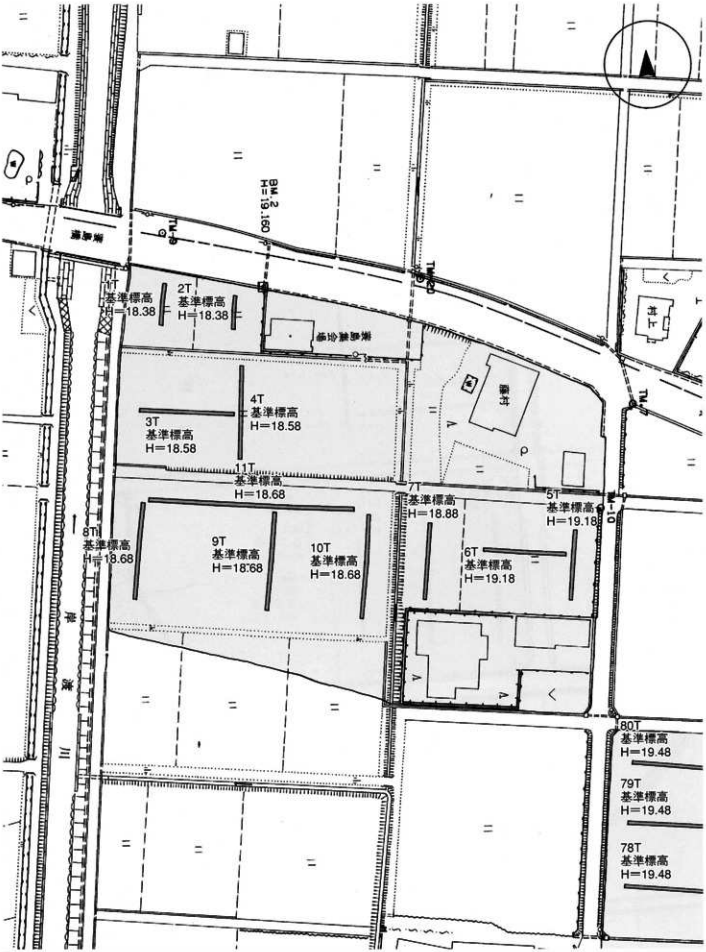
第５図　試掘調査概要図（1/1,000）

第６図　試掘調査概要図（1/1,000）

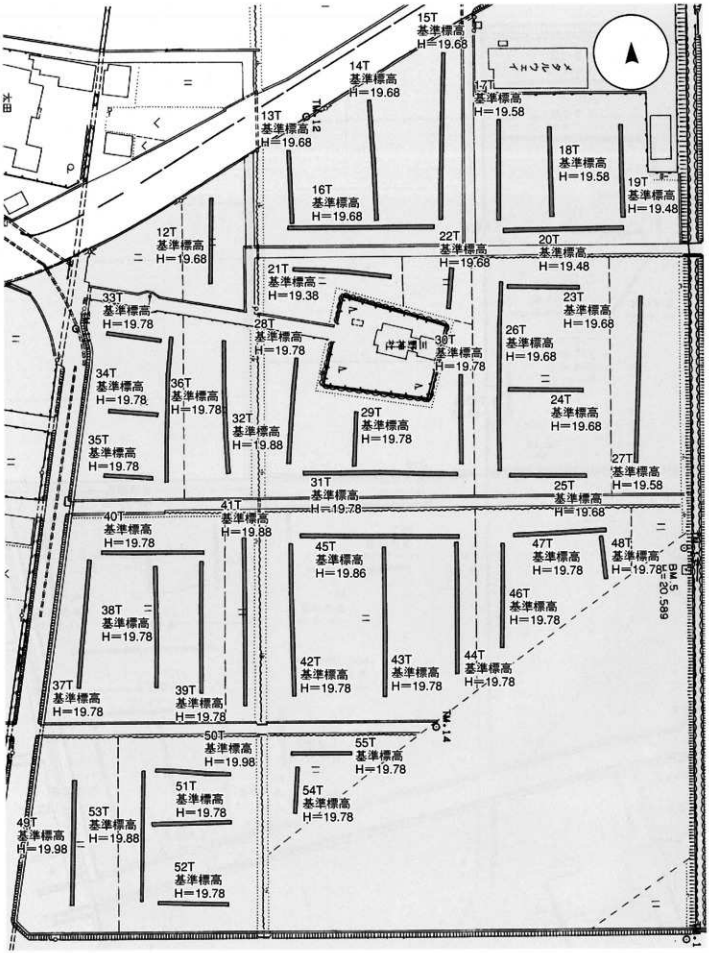
第７図　試掘調査概要図（1/1,000）



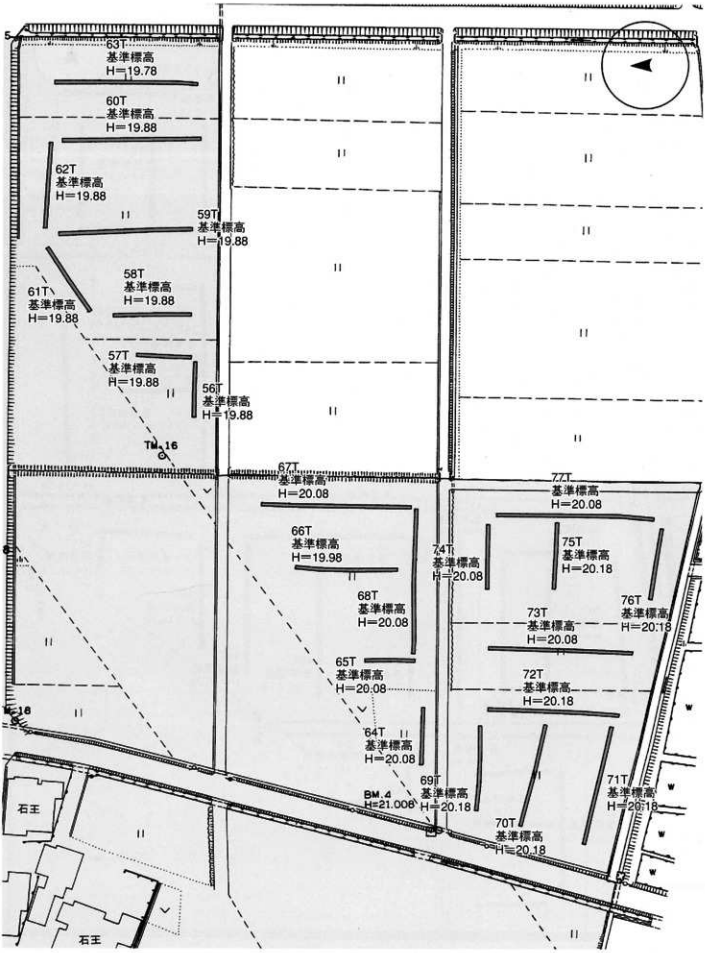
第８図　試掘調査概要図（1/1,000）



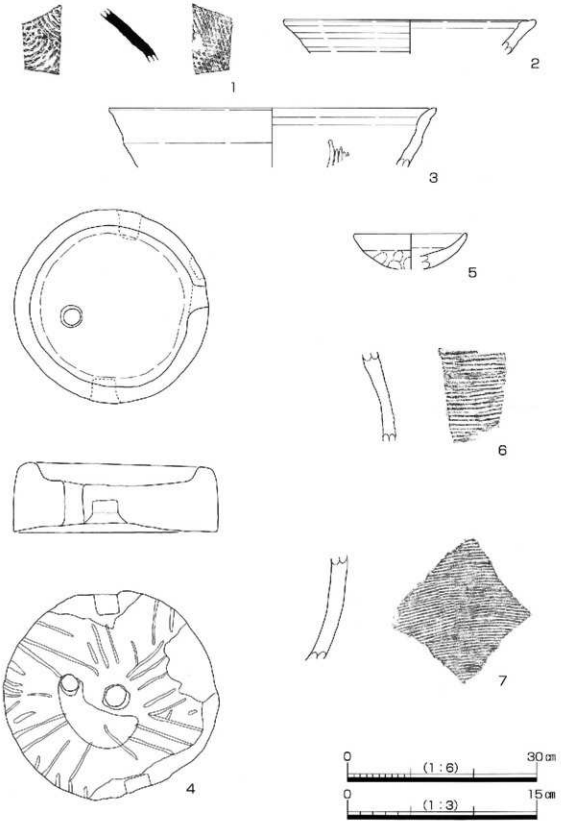
第９図　試掘調査概要図（1/1,000）



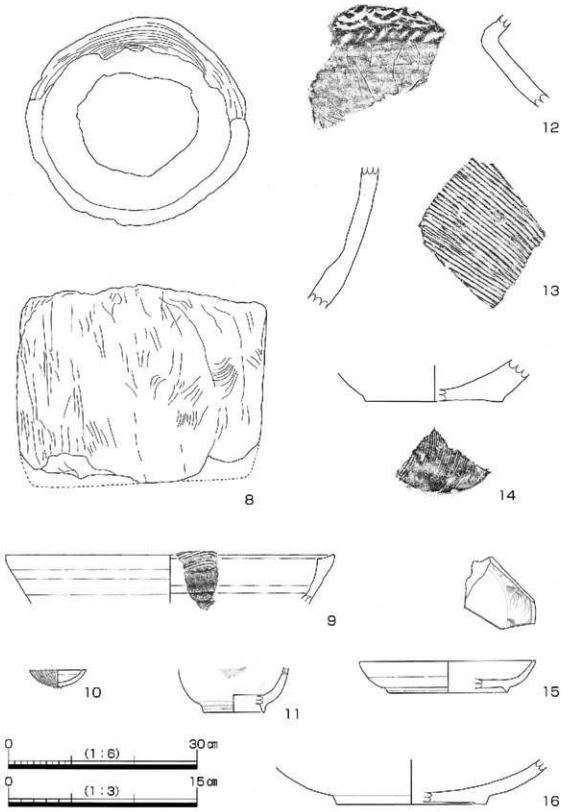
第10図　試掘調査概要図（1/1,000）



第11図　試掘調査概要図（1/1,000）



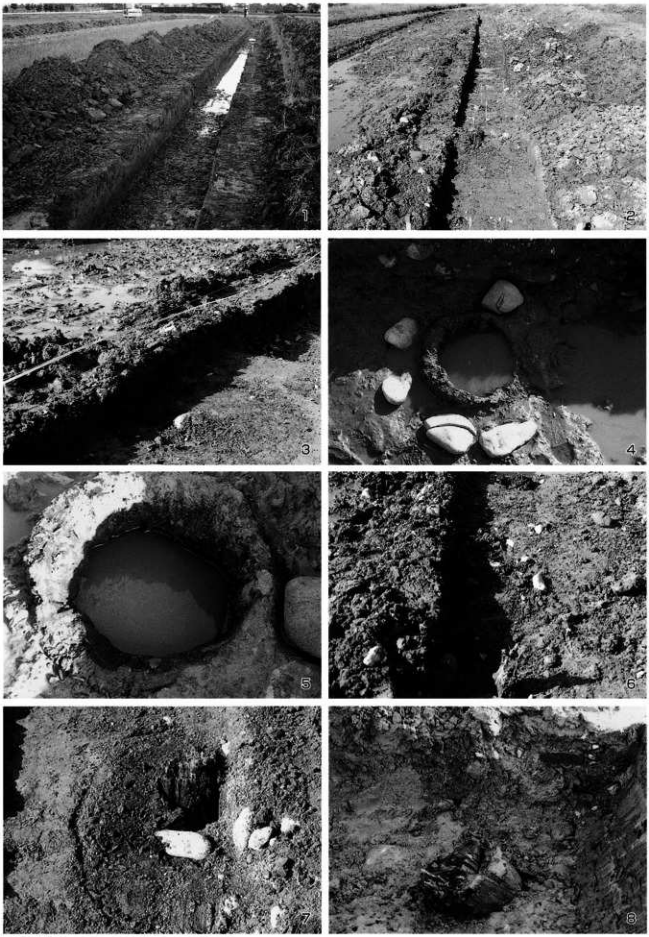
第12図　遺物実測図（1/3）　※4は（1/6）



第13図　遺物実測図（1/3）　※8は（1/6）

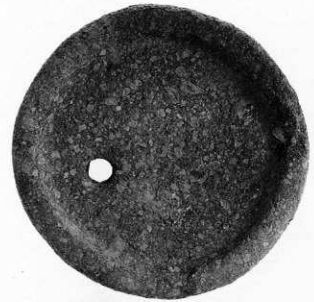
写真図版１　航空写真（1946年）

写真図版２　1.HM－01遺跡全景（南から）　2.蓑島前川原・HM－04遺跡全景（北から）　3.蓑島遺跡全景（北から）
4.蓑島遺跡掘削風景（南西から）　5.重機掘削状況　6.人力作業風景（12年度）　7.人力作業風景（13年度）　8.土層図化風景



写真図版３　（HM－01遺跡）1. 2T（西から）
（葛島前川原遺跡）2. 12T（南から）　3. 12T遺構検出状況（南東から）　4. 4T井戸検出状況（北から）　5. 〃井戸水溜（刎貫）
6. 13T柱根並列状況　7. 〃柱根検出状況（東から）　8. 14T柱根検出状況（北から）

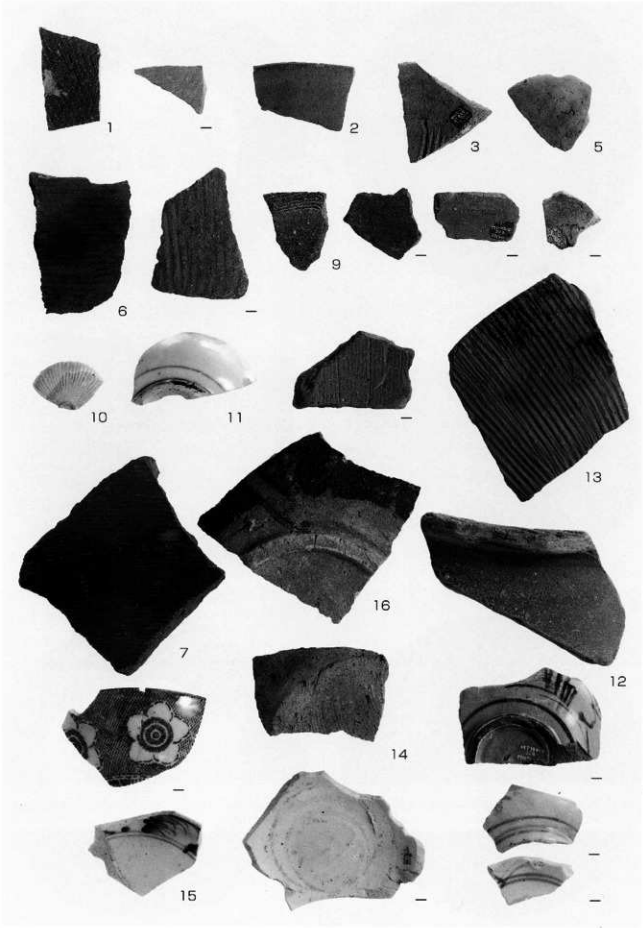
写真図版４　《蓑島前川原遺跡》1.13T遺物出土状況（北から）　2.〃木板出土状況　3.14T折敷底板出土状況
（HM－04遺跡）4.3T（南から）
《蓑島遺跡》5.21T（南から）　6.78T（南から）　7.81T漆器出土状況　8.埋め戻し完了状況



4

8

写真図版５　出土遺物（襲島前川原遺跡出土）



写真図版6　出土遺物（1/2）

報告書抄録

ふ り が な	とやまけんふくおかまちみのじまちくにかかわるまいぞうぶんかざいほうぞうちしくつちょうさほうこく
書　　名	富山県福岡町蓑島地区に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	9
編著者名	栗山雅夫
編集・発行機関	福岡町教育委員会
所　在　地	〒939-0132　富山県西砺波郡福岡町大滝44番地　TEL0766－64－5333
発行年月日	西暦2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
HM－01	ふくおかまちみのじま 福岡町蓑島	16224	422096	36度 41分 55秒	136度 55分 45秒	20001019～1220	460㎡	圃場整備事業に伴う分布調査・試掘調査
みのじまえがわら 蓑島前川原 (旧HM－02)	ふくおかまちみのじま 福岡町蓑島	16224	422097	36度 41分 45秒	136度 55分 40秒	20001019～1220	627㎡	
HM－04	ふくおかまちみのじま 福岡町蓑島	16224	422099	36度 41分 40秒	136度 55分 50秒	20001019～1220	232㎡	
みのじま 蓑島	ふくおかまちみのじま 福岡町蓑島	16224	422074	36度 41分 45秒	136度 56分 5秒	20001019～1220 20011126～1201	2,166㎡	

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
HM－01	散布地	古代・中世・近世	なし	須恵器、珠洲・青磁、越中瀬戸・肥前陶磁	遺跡消失
蓑島前川原	集落	弥生・中世・近世	土坑・柱穴・溝・井戸	須恵器、中世土師器・珠洲・折敷・石臼、肥前陶磁	旧HM－02遺跡
HM－04	散布地	中世・近世	なし	珠洲、越中瀬戸・近世磁器	遺跡消失
蓑島	集落	縄文(晩)・弥生(後)・古墳(前)中世・近世	なし	弥生土器、中世土師器・青磁・珠洲・瀬戸美濃、越中瀬戸・近世陶磁、漆器	遺跡消失

※遺物は、分布調査・試掘調査により採集・出土したものを記している。
また、試掘調査により消滅した遺跡の場合、主な時代は採集遺物の時代を記している。

県営圃場整備事業（担い手育成型）
富山県福岡町
蓑島地区に係る埋蔵文化財包蔵地
試掘調査報告書
HM－01遺跡・蓑島前川原遺跡・HM－04遺跡・蓑島遺跡

発　行　日　平成14年3月29日
編集・発行　福岡町教育委員会
〒939-0132
富山県西砺波郡福岡町大滝44番地
℡0766－64－5333
印　　刷　株式会社アヤト